プロと根性

私は，スポーツは得意でないが，観戦は大好きである．プロにはプロのよさがあり，アマにはアマのよさがある．しかし，プロとアマとの基本的な違いのひとつは，その根性にあるのではなかろうか．プロは，技を競うことそのものが，みずからのなりわいである．そこには，寸刻の怠惰や気のゆるみも許されない．怠惰や気のゆるみは，直接勝敗を支配し，プロとしての生命に影響するからである．ところでプロの根性とは，いったいどんなものだろうか．

かのジャイアンツの王選手も，ついにホームラン世界新記録を樹立した．しかし，彼のこの輝やかしき成果も一朝にしてなったわけではない．不屈の意思と不断の研鑽・努力蓄積の賜物である．過去打撃不振に悩んだことは，再度ならずあったはずである．打撃不振に陥るとスポーツ記事やスポーツ解説は黙っていない．批判やお説教じみた言葉を雨あられと投げかけてくる．これもプロであるための宿命である．他人がなんといおうとそれに惑わされず，ともするとくじけがちなみずからの心と闘い，明日に備えてみずからの手で，この苦境からの脱出をはからなければならない．そこには，「倒れて後なおやまず」の根性がいるだろう．一方，打撃が好調となれば，また，それなりに騒がれる．今度の王選手の世界記録樹立の直前の例は異常な例かもしれない．しかし，プロの厳しさをよくあらわしているといえよう．私自身，755号，756号，その一発が今日でるか，明日でるかとずいぶん気をもんだ．テレビ・ラジオ・新聞もまだかまだかとまくしたてる．世界記録の樹立を待つ側の焦燥感は，いやがうえにもかりたてられる．このただならぬ世の気配は，王選手の心にどのように作用したであろうか．ファンのためにも，早く一発打たねばと思うだろう．下手するとそれが焦りとなる．「よし，今度は打とう」と力むとかえって打てない．打つためには，周囲の騒ぎをよそに，みずからを無念無想の境地におかなくてはなるまい．これをなしうるところにプロの真髄があるといえよう．

また，ボクシングにしろ，角力にしろ，全智・全能を傾注してのファイトは，見る者を陶酔の境地へとみちびく．これに反して，闘志の欠けたプレーや，まずい技，中途での試合を投げたかと思わせるような振舞い等は，「なんだ，プロのくせに」と唾棄の情を覚えさせる．プロは，技を磨きそれを競うことによって生計をたてている．したがって，それにふさわしい技を身につけ，不断にこれを磨かねばなるまい．ファイトにあたっては，不屈の闘志がいる．そうでないとファンもできず，ひいては収入に直接的に影響するからである．それには，なにごともやりとおすという根性がいるだろう．「減量に苦しんだが，その影響がどうでるか？」なんてアナウンスされたプロボクシングは，見る気を半減される．

「プロボクサーたるもの，ファイトの正念場で最良の体調が得られるように，体調の調整ができなくて何のプロか，不心得もはなはだしい」という気持が先立つからである．

プロというものは厳しいもののようだ．その日その日が戦いである．技を磨く闘い，みずからの心との闘い，周囲のノイズとの闘い．それに打ち勝ってはじめて，プロとしての寿命が維持できる．それには並以上の根性がいる．

ところで，ORにもORのプロというものがあるだろうか．もしあるとするなら，どのようなものをORのプロというのであろうか．学究の傍ら実地にORをやったり指導している大学の先生．彼は，教育者なのか，はたまたORのプロなのか．この道では，アカデミックな領域での業績が物をいうのだが．ORの分野で知名で，企業等の役職について活躍している人々．彼らは，ORのプロであるがゆえに，役職につけたのか，はたまた，本来役職にふさわしい識見・技倆を備えていたせいだろうか．あるいは，経済・都市工学・数学等々の知識を背景にコンサルタントとして活躍している人々をORのプロというのだろうか．もしそうだとすると，ORとはいったい何なのか，という疑問に直面する．

よし，ORのプロが存在するとしても，スポーツ界や芸能界におけるほどの厳しさはないようだし，また，彼らに要求されるほどの根性も要求されるわけではないような気もする．とすると，まだまだ，ORプロ形成の社会的条件が未成熟ということなのかな．

（マグマ）

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．